

惠比壽天申譯之記

我法非小留さるをあづかり候所にと
あまうけられたいをつりてゆへに盛をまて
ないまへにおうびにあつてつてこちま
くゆめつてをまてつて大に戸へまうつて
我のあまけれをうちづてもちまてを
とづて法をちづて死に人をもまて
生大いさをせまてまてまてまて
あまてまてつてつてつてつて
きんじ位にとらうとつてのまてまてまて
大にちまてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつて

「おまゝにござう作のおもむたりとまうおとびごびたへんの
 王に王あうはきてたさきとさるいさへハナととまかなの
 美やうそちちあおれおのちちあへどめんふさむひ日あり
 さむいとれおあたさる日ありとのどくささうのちち
 びてうんごんの吹るるといふくは今年をたふじんちうぶ
 づくのうくさういへ八百方社の所ちうたさきとい
 以力あうる也とて天地おんごんの吹のささまり
 ありてなるちうときさきのちうう王のちちひいめん
 目さうとちちのちちひいめんのちちひいめん
 表せのちちうくと日死すあきりのちちん

しんの王くまひまなりは也(人)と云ふども
いやくせのとうとらせどもみくやのみん
らんがうふらひひざぎはもちひあひさ
ざる日本へひざぎはりまの肉ある

とてふをそと
にふりてふ

陸王不整あるを由美云

二色をくみくみ共日中

所積ふに由りて是と云ふ
 のより多くは少くするは是也

そんよるまのちのちあふれ

まゝのめを所分け

下さきと西が日本のとちをまはる

たびのどんたふりては

天下を治るは

考ず代をすりなうらと

[illegible]

成きとて下さる事と云ふ

ありてあらざる

き年うへう十月のうめ

てて若衆のど

自身除之守

方
面
南
北

馬
也
也
也

名臣方集

家の中へ



東山書院
大甲
卷之五
五

[illegible][illegible][illegible][illegible]

新刊

卷之六



00 11842119